

1. 事業の成果

50年後の地球環境、我が国の自然環境、地域の自然環境、沖ノ島及び周辺エリアの自然環境を見据え行動する。そのための出来ること「自然環境を守り・伝える」ことを持続可能な方法で行い、未来を生きる子供たちのための地域の安全安心な自然環境と生活環境を実現に寄与することを目指した。
エコツーリズムからローカル SDGs へローカル SDGs⇨地域循環共生圏⇨自立分散型社会の実現を目指した。

(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業

①自然体験活動

◆沖ノ島定期開催活動

- ・リーダーができる人材の育成を行い、年間稼働率を上げることを目指し175人が参加した。
- ・夏季開催も実施した。7.8月は特定日のみ開催した。夏季は生き物探しの内容で実施し、上記のうち68人が参加した。
- ・じゃらん遊び体験予約との連携を継続し上記参加者のうち49人が参加した。
- ・運営マニュアルの作成を継続し勉強会を5月と12月実施し活用した。

◆スノーケリング活動

- ・コロナ禍に配慮し、定員数を少なくし、夏季は通期で実施することができた。508人が参加した。
- ・沖ノ島スノーケリングの運営マニュアルを見直し、徹底し実施した。
- ・活動備品などの検討を行い、メーカーAQAと連携した。
- ・事前練習会を6月から行き安全な活動に努めた。レスキュー訓練、心肺蘇生法訓練(CPR)を実施した。

◆クラフト体験(イベント含)

- ・イベントPR活動などはコロナ禍の為活動が困難であった。

②募集企画活動(盛夏を除く月1~2回の募集企画の活動)

◆募集体験

- ・2022年度は、森の再生活動として3回実施した。募集企画としては実施できなかった。

◆つり体験(食体験)

- ・ちよい投げ釣り(随時募集型)を行った。個人グループ対応し5グループが参加した。
- ・館山夕日栈橋ちよい投げ釣り大会は、栈橋が拡張工事の為延期となった。

③環境学習体験活動

◆修学旅行・体験学習など沖ノ島など団体受け入れにて約4200人が参加した。

- ・コーディネートスキルアップと他団体(MAPSなど)との連携を模索した。
- ・体験プログラムを他団体(体験交流協会・観光協会・千葉自然学校・休暇村館山・南房総市)や行政と連携を行った。
- ・足立区の小学校へのアプローチを行い、上記のうち20校 約1400人が参加した。
- ・沖ノ島の森の再生活動を内容に盛り込み、環境教育ツール2021年度版ツール(リーフレット)を活用し4校が参加した。

◆他地区との連携

- ・大房自然学校との連携を継続した。また南房総市観光協会との連携を開始した。
- ・環境教育ツール2021年度版ツール(リーフレット)を継続活用した。

(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

①環境保全活動（実践）アマモと森の再生

◆部会規約を作成し、アマモ部会が発足した。

◆アマモ場再生の実践を行った。

5月移植 6月花枝採集 9月選別 11月種まきを実施、延べ約100人が参加した。館山総合高校・安房高校との連携によるアマモ場再生を実施した。

2017・2018・2019・2020・2021年度までの活動では、ノウハウを得る事が出来たが、残念ながら食害が原因と思われる移植したアマモの消失により再生が出来なかったため、種まきのやり方の工夫を行いながら継続した。

・漁協、釣り具メーカー（ヤマリア）と連携しアマモ場再生に関わる、アオリイカ産卵床の設置を5月に行った。

・アマモ場再生のための定点調査（外部委託通年）を7回行った。

◆JEAN クリーンアップ海岸ゴミ調査清掃を11月に実施し63人が参加した。

◆森の再生活動

・NPO 法人地球守(高田造園)の指導により、4月、5月、6月、11月、12月、1月、2月、3月に森の再生活動を実施した。4月、6月、11月、12月、2月、3月は「学びの場と」して提供若者を含む延べ約200人が参加した。

◆沖ノ島から一番近い河川蟹田川流域モデルエリアとして再生活動の可能性を模索し、活動を2023年1月9日に実施し、地域住民と子供たち総勢26人が参加し、里山モデル地区を歩き、活用の可能性を共有した

◆環境保全活動のビジネス化 ローカル環境ビジネスの育成

・4月に国土交通省関東地方整備局との関わりで横浜での「東京湾 UMI プロジェクト」(企業によるアマモ場再生)の活動事例を共有した。それにより、この地域に置き換えた内容で、企業をターゲットした新しい取り組みとして内容を探ることができた。10月には「館山港 UMI プロジェクト検討会」に参画し準備をしていくことになった。

◆沖ノ島のゴミ問題の解決提案を行い、島の入り口のごみ置き場が改善された。

◆各保全活動はその目的に関する寄付金を募り、コングラントも活用し55人 289,701円の寄付が集まった。

・認定NPOの可能性を継続して探った。(2023も継続する)

②環境啓発活動

◆ガイドブック(海辺の生き物語)を約180冊活用した。

◆沖ノ島について考える検討会(官民連携)を、4月と12月に年2回実施した。沖ノ島の環境保全活動への提言と協力を行った。

◆夏季ビジターセンター パークレンジャー活動を7.8月継続した。

・海水浴期間中のゴミ拾いタイムの設定し実施し効果をあげた。

◆地域啓発イベントの実施

・「全国アマモサミット 2022in たてやま」を、実行員会を組織し「海辺の自然再生・高校生サミット」と同時開催にて2022年10月28日29日30日に、館山総合高等学校水産校舎にて行い、延べ人数で714人、オンラインで延べ約900人がアクセス、「大会宣言」を採択した。

◆2022年度 委託、沖ノ島環境保全協力金事業実施

・人材確保・アルバイトを確保し、さらに館山総合高校・安房高校とのコラボし（保全・協力金）事前説明会を行い約 1230 万円の環境保全協力金を得た。

◆指導者養成講座を実施した。

・4/16. 17. 23 と 1/14. 21. 22 に千葉自然学校と連携し開催した。4月は12名が参加し、うみかんメイツに6名参加した。（サポートスタッフとして2名活動している）1月は、7名が参加し、うみかんメイツに5名が参加した。

◆地域向け体験教室「沖ノ島探検隊」など 館山市中央公民館（行政）と連携して実施した。

◆YouTube チャンネルを活用し、映像コンテンツを作成 10 本掲載し、520 人が登録しオンラインによる普及啓発を行った。

③調査研究活動

・地域のエコツアーリズム研究とローカル SDGs の研究を行った。
 ・地域資源調査 新しいプログラム開発に繋がる資源とアイデアを里山モデル地区の活動からヒントを得た。

3. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業	①自然体験活動 ・沖ノ島定期開催 ・スノーケリング体験 ・釣り体験	通年 夏季 通年	沖ノ島 沖ノ島 近隣海岸	20人 20人 5人	地域住民および来訪者 175人 508人 5グループ
	②環境学習体験	通年	沖ノ島など	160人	学校関係、教育団体等 約4200人
(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業	①環境保全活動 ・アマモ場再生活動	通年	沖ノ島周辺	100人	地域住民、来訪者 不特定 約100人
	・海岸清掃(JEAN)	11月	沖ノ島	10人	約63人
	・森の再生活動	通年	沖ノ島	100人	約200人(参加者のみ)
	②環境啓発活動 ・ガイドブック(海辺の生き物語) ・全国アマモサミット2022in たてやま	通年 10月	地域の書店 観光施設 オンライン	10人 100人	地域住民、来訪者 不特定多数 約180冊活用 リアル参加714人、オンライン約900人
	・沖ノ島環境保全協力金 ・里山モデル地区調査 ・指導者養成講座	7月8月 1月 4月 1月	沖ノ島周辺 館山市など 沖ノ島・大房	30人 10人 各5人	沖ノ島来訪者不特定 地域住民 26人 地域内外延べ19人
・YouTube チャンネル	通年	オンライン		520名登録 不特定 多数	
③調査研究 ・SDGS など研究	9月	館山市など	3人	団体メンバー 等	